

平成30年度 第2回 日野市子ども・子育て支援会議
議事録

日 時 平成30年8月2日（木）午後6時30分～午後8時30分

場 所 日野市役所5階505会議室

出席者 委員 乙訓委員、土屋委員、秋山委員、嶋田委員、赤塚委員、東委員、出浦委員、
寺田委員、村田委員、原嶋委員、青嶋委員、小俣委員、奥澤委員、
小林委員、赤久保委員、山下委員、篠崎委員

事務局 谷子育て課長、木暮子育て課長補佐、佐々木子育て課副主幹、横堀子育て課
助成係長、眞砂子育て課地域青少年係長、中田保育課長、西山保育課長補佐、
堀辺子ども家庭支援センター長、正井子ども家庭支援センター課長補佐、小
出子ども家庭支援センター地域支援係長、三輪子ども家庭支援センター主査

欠席者 久富委員、三浦委員、稲田委員

傍聴者 なし

（開会）

（1. 会長あいさつ）

会長

それでは、定刻を過ぎましたので、平成30年度第2回子ども子育て支援会議を始めます。

大変暑いところ、また、お忙しい中、ご出席ありがとうございます。早速、定足数、委員の出欠席、資料の確認を事務局からお願いします。

事務局

それでは、本日の委員の出欠席の状況でございます。3名の方から、ご欠席の連絡をいただいております。また、お1人、遅れていらっしゃるようですが、過半数の出席をいただいておりますことをご報告いたします。

それから、本日、傍聴につきましては、希望がないということでございますので、よろしくお願いたします。

会長

続けて、配布資料の説明等を事務局からお願いします。

事務局

それでは、本日の資料の確認をさせていただきます。まず、事前に郵送させていただきました資料でございます。

- ① 資料1 関連計画等を踏まえた地域特性分析等 A3サイズ2枚
- ② 資料2 日野市子ども・子育て支援に関するニーズ調査<調査項目一覧>
- ③ 資料3 日野市子ども・子育て支援に関するニーズ調査<調査票>
- ④ 資料4 策定スケジュール(変更案)
- ⑤ 資料5 新!ひのっ子すくすくプラン(第5章163事業)平成29年度事業実績等一覧

以上でございます。また、それとは別に、

- ① 知っ得ハンドブック2018版の冊子
- ② 日野市子ども条例10周年記念事業実施概要
- ③ 子どもの権利論の系譜と展開

以上を、本日机上に置かせていただいております。

子どもの権利論の系譜と展開という資料は、会長の著書から抜粋したものです。前回の会議で子どもの権利という話が出ましたので、会長から参考にご提供いただきました。こちらにつきましては、本日の議案とは直接関係はございませんので、お時間のある時にご覧いただければと思います。

以上、資料は不足等ございませんか。何かございましたら、事務局にお申し付けください。

会長

僭越ですが、私が10年ほど前に書きましたものを、今回提供させていただきました。お時間のある時に、目を通していただけたらと思います。子どもの人権の基本的な思想について書いてある著書です。今回抜粋した「補遺」の前に、5章に渡って現代20世紀の幼児教育思想、教育論について書いてあります。アメリカの有名な哲学者で教授のジョン・デューイ、スウェーデンのエレン・ケイ、皆様も名前を聞いたことがあると思いますがイタリアの教育家モンテッソーリ、共産圏ではレーニンの妻クルプスカヤ、最後にイギリスの哲学者のバートランド・ラッセルについて書いてあります。

(2. 審議事項(1)次期計画に向けて)

会長

それでは、次第の審議事項に移りたいと思います。事務局より説明をお願いします。

事務局

着座にて失礼します。(1)次期計画策定に向けて について、委託事業者の担当者から、資料1~4によりご説明いたします。特に、資料3の調査票につきましては、前回の会議でお示しました平成25年度のニーズ調査票に対し、この間、委員の方からいただいたご意見を、若干修正漏れもあるかもしれませんが、可能な限り反映し修正したものを、本日の資料として提出させていただいております。委員のお1人から、事前にご意見をいただいておりますが、本日、説明後に、委員の方々からご意見をいただき、また、本日の会議後にもメール等で一定期間ご意見をいただきたいと思います。それを受け、再度修正した調査票の案を、今月中を目途に委員の皆様へメール等でお送りし、また、それに対し9月中旬頃までにご意見をいただき再々修正をし、次回会議では、ニーズ調査票を、中学生・高校生対象のものも含め、確定させたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

会長

ありがとうございました。プロセスと扱いについて、お分かりいただければと思います。時間に限りがあり、分量が多いので、早速、コンサルの方よりご説明いただきたいと思います。

委託事業者

本日は宜しくお願ひいたします。それでは、座って説明をさせていただきます。

資料がかなり多くなっております。今回の会議では、アンケート調査についてご審議いただくこととなります。次回の会議を含めて、すべてで7種類のアンケートをご審議いただくこととなります。非常にボリュームが多くなっておりますので、本日の会議では、7種類のうち、4種類のアンケートを資料として配布しておりますので、その4種類のアンケートについてご審議していただきたいと思います。

調査票を作成するにあたり、地域特性の分析等をしております。それに関して、資料1と資料2で説明をさせていただき、その後、具体的に資料3の調査票の説明に入りたいと思います。20分程度の説明となりますので、宜しくお願ひいたします。

それでは、まず、資料1でございます。関連計画等を踏まえた地域特性分析 SWOT分析 の資料をご覧ください。この資料1の目的をご説明します。後程、資料3で調査票の説明をいたしますが、その調査票につきましては、国から統一の調査票が示されます。その統一の調査票に基づいて、教育・保育の量や、地域子育て支援事業の量の見込みをしていくことになっております。国の調査項目につきましては、あまり変更をかけられないことになっておりますが、日野市だからこそ聞いた方がよい項目があると思います。そのような項目を考えるにあたり、日野市の地域特性を明確にしておく必要があるのではないかと思います。もちろん、アンケート調査をとって、現状と課題を明確にするということもありますが、アンケート調査をするにあたり、ある程度仮説を立てて、その仮説を検証していくことでそのまちの特性が把握できると思います。その仮説を設定する目的で、資料1を準備させていただきました。

資料1から抜粋して、説明させていただきたいと思います。まず、現状と課題を明確にするにあたりまして、資料の中心付近に、統計データや関連計画等の現状を記載させていただいております。5年に1度の「国勢調査」や、毎年実施している「とうけい日野」、さらには5年前の「新！日野っ子すくすくプラン」の中でも、5年前の現状になりますが日野市の現状が、データとして示されております。また、日野市子どもの貧困対策に関する基本方針が、近年、策定されておりますので、こちらの現状も記載してございます。関連計画等からきたデータを基に、強みや弱みを明確にすることによって、現状と課題の絞り込みができると思います。その手法が、SWOT分析と言われる手法でございます。日野市の強み・弱みを、このデータだけで考えるだけではなく、社会的なこれから来るであろう機会の部分や、これから来るであろう脅威の部分から、強みと弱みを補完して課題の絞り込みを行いたいと思っております。データ関係が資料1の1のページ目に記載されておりますので、この強みと弱みの部分を基に、説明を進めさせていただきます。

それでは、次のページをご覧ください。それぞれ、強み・弱み・機会・脅威をくっつけながら、右側に「見直しの視点」として「重点課題」を絞り込みさせていただきました。後程ご覧ください。また、資料にある6つの重点課題は、今の段階では仮説となります。これからアンケート調査を実施しながら、これらの課題を検証することとなります。

それでは、これらの6つの課題に触れながら、説明させていただこうと思います。

1つ目の課題は、「平成30年度に保育園を3園整備し、定員の拡大を図っておりますが、今後も利用者数の増加が見込まれております。様々な教育・保育資源を活用しながら、幅広い保育ニーズに対応するとともに、保育の質の確保をしながら待機児童の解消を図っていくことが必要。」

2つ目、「子育ての悩みを打ち明ける相談相手が身近に少なく、分かりやすく、気軽に相談できる環境整備や専門的な環境が求められている。」

3つ目、「子どもを取り巻く環境は複雑化・多様化しており、育児に不安を抱える人が地域から孤立しないように、地域で子どもを見守り、子育て世代が安心して地域で生活できる地域環境づくりが必要である。」

4つ目、「子どもの健全な心身の発達のためには、様々な人々との交流や遊び、体験活動ができる場が非常に重要となる。」

5つ目、「子どもの人権をめぐる問題が深刻化しています。子どもの状況に応じた支援体制の整備が必要である。」

そして最後の6つ目の課題は、「支援を必要とする子どもやその家庭に子育て・生活支援、養育費の確保支援、経済的支援を含めた総合的な支援を行うことが必要である。」ということです。以上の6つの重点課題に基づいて、これらを検証する項目を設計したいと考えています。

次のページをご覧ください。「原因抽出のための整理表」です。先ほどの6つの重要課題を基に、一番右に「課題の仮説」として6つの仮説を記載しています。これを基に、次の最終ページで、具体的な項目に触れながらご説明させていただこうと思います。最終ページをご覧ください。先ほどの6つの重要課題を基に、一番右に「課題の検証」を記載しております。

1つ目、「育児休業明けに希望する保育サービスが利用できる環境になっていない。」

2つ目、「子ども・子育てのことで気軽に相談できる環境にない。」

3つ目、「育児に不安をかかえ、地域から孤立している。」

4つ目、「対人交流や遊びや体験活動が乏しい子どもが多くなっている。」

5つ目、「子どもが人権をめぐるトラブルに巻き込まれている。」

6つ目、「家庭環境によって子どもの養育環境に影響を及ぼしている。」

以上でございます。

先ほどの6つの重点課題を基に、それらと対になる6つの仮説を設定いたしました。この仮説を基に、現状を検証していきます。資料の左側に「前提条件」、「地域の仮説」、「市民の仮説」、「行政の仮説」を設け、項目を設計させていただいております。例えば、「子育てに関する相談窓口を知っていますか。」とか「日常生活において孤立感を感じますか。」、さらに「孤立感を和らげるためにどんなことが地域で必要ですか。」、「子育て支援サービスの情報はどこから入手していますか。」というように、「原因抽出のための整理表」の一番右にある仮説を検証する項目を設計しました。このように、日野市の地域特性からくる新規の項目を組み込みながら、アンケート調査の設計をしております。

それでは、アンケート調査の説明に入ります。資料2 子ども・子育てに関するニーズ調査 < 調査項目一覧表 > をご覧ください。それぞれ一覧表になっております。就学前児童、小学生、子育て関連事業者・団体、企業の4種類の調査票です。

それではまず、1つ目の就学前児童からご説明いたします。「日野市の子ども子育てに関するニーズ調査、調査項目一覧表(就学前児童)」をご覧ください。タイトルの下に説明書きがありま

す。新規と書いてある項目があります。この新規以外は、前回の5年前の調査と同様の項目になっております。問1から、それぞれ番号が振られております。本日の資料としてご提示させていただいている項目は、前回調査のアンケート項目から抜き取りをしたり、新しく項目を追加したり、さらには順番を少し変えてあります。また、前回の5年前の調査項目からの経緯やプロセスを明確にするために、調査項目一覧の問番号は、5年前と同様の問番号を入れて、削除した項目や、新規で追加した項目が分かるように資料を作成しています。新規と記載がある項目については、先ほど資料1で説明した地域特性分析からくる項目で、新しく追加したものです。

そして、「国調査」という欄が設けられておりますが、その欄に◎、○、△の3つの凡例が入っております。こちらが、先ほど説明した、アンケート調査項目を基に、教育・保育、そして、地域子育て支援事業の量の見込みをしていく項目になっております。国から求められている項目で、削除することができない項目もあります。その項目には◎が入っており、国の量の見込みの必須項目となっております。そして、○は、国の量の見込みの項目ではございますが、任意項目となっており、削除しても問題ないものでございます。そして△が入っている項目は、国から示されている量の見込みをする項目ではございません。こちらも、削除することが可能な項目となっております。そしてもう1つ、問番号の前に★印が入っている項目につきましては、5年前の調査の時に市独自項目として設計した項目です。今回の段階で、新たに追加した項目もありますので、★印の項目について、かなり削除しているので、今後ご意見をいただく際に、残した方がよいなど積極的にご意見をいただきたいと思います。このように、調査項目について整理しております。同様に、小学生、中学生等、すべての種類の調査票を作成しております。

それでは、具体的にアンケート調査項目の説明をさせていただきます。資料3 就学前児童調査票 をご覧ください。かなり分厚い調査票になっております。最後のページをご覧くださいと、20ページとなっており、かなりボリュームの多い調査票になっております。実際にアンケート調査を実施するにあたり、中綴じ製本と言われるA3版を織り込んでいく製本方法になりますので、4の倍数でアンケート調査を実施する形式になっております。現在、A3版 5枚で設計しているので、項目数としては最大になっております。中々これに項目を追加していくのは難しいと思いますが、追加したら削除する等して対応するようになるかと思っております。

それから、依頼文は、ご協力のお願い、アンケートの趣旨、回答にあたってのお願いの文書になっており、裏面には事業一覧を印刷してあります。具体的にアンケートの項目を見ていただきますと、事業名やサービス名が入っております。事業等の内容について、ご理解を得ないままだと、アンケートに回答していただくことができない部分もあると思っておりますので、事業内容を説明しながら、アンケート調査を実施しようと考えました。また、事業名及び事業内容を周知していく目的も兼ねたいと思っておりますので、この依頼文・事業一覧は市民の方々のお手元に残るように、調査票とは別綴じで対応したいと思っております。

それでは、アンケート項目の中身の説明をさせていただきます。調査票の1ページ目をご覧ください。まず、問1、問2は、子育てを楽しんでいるか、そして日常的に悩んでいることの項目となっております。その後、新規で子育てに関する相談窓口についての項目を設けました。次に、問4では、子どもに対する行動について聞く項目で、子どもに対して思わずたいたり、子どもの心を傷つけたりしてしまうことはあるかを聞く内容になっております。そして、2ページ目の問8から問10は、子育て環境に関する項目で、お子様を預かってもらえる状況や養育状況について聞く内容となっております。続いて、問11、問12では気軽に相談できる人、また、その相談先

はどこかを聞いています。そして3ページ目の下段の間14では、地域での子育ての状況に関する項目で、地域との付き合い方や、地域の中で自分をどのように捉えているかを聞く内容になっております。その次に、新規項目がいくつか追加されております。そして、4ページ目下段の間22から、分岐する項目が多くなり、本調査のメインとなっております。間22から間24では、家族類型、例えば、父親がフルタイム勤務で母親がパートタイム勤務であるとか、父親と母親共にフルタイム勤務であるとか、父親がフルタイム勤務で母親が専業主婦であるとか、そのような家族類型を把握するための項目が設計されております。そして、7ページ目の間25から間31では、育児休業についての項目で、育児休業制度の取得状況や、育児休業後に保育サービスを円滑に利用できるかどうかを聞く内容となっております。そして、9ページの一番下に、0歳から2歳時における子育てに対する考え方について項目を新規で追加しております。

次の10ページ以降では、保育サービスの利用状況について詳しく確認する項目が設計されております。保育サービスを利用したいかについての項目では、利用したいという回答が多くなるのではないかと予想されます。そこで、実際に0歳から2歳において、どのような考え方で、保育サービスを利用したいかを確認する項目を設けています。例えば、「育児休業制度が整っていれば、在宅で子育てしたい。」とか、「一時預かりなど不定期な保育サービスを利用できれば、在宅で子育てしたい。」とか、「すぐに就労したいので、すぐに保育サービスを利用したい。」などの項目を入れることにより、真のサービス利用が見えてくるのではないかと思います。先ほどの家庭累計と共に、今回の調査のメインの項目となっております。具体的に、保育園・幼稚園の利用規模や一時預かり、病児病後児サービス、さらにショートステイ等の事業サービスの利用状況を確認する項目が入っています。詳細については省略させていただきます。

そして、15ページをご覧ください。間65は、公的サービスや相談窓口等で知っているものや、これまでに利用したことがあるもの、今後利用したいサービスはあるかという項目で、サービスの利用状況や規模、認知度やニーズを確認する項目となっております。

18ページをご覧ください。ご家族やお子様の基本属性、例えば、ご家族の構成やお子様の小学校の学区、さらに1日でお子様と接する時間がどのくらいあるかを確認する項目となっております。

そして最後に19ページでは、日野市の子育て支援で力を入れていくべきこと等のアンケート項目を設計しています。

以上で、就学前児童の調査票についての説明を終わります。

会長

ありがとうございました。まだあと3種類 小学生、子育て関連事業者・団体、企業の説明がありますが、ここでいったん説明を切りまして、ここまでの就学前児童の説明で、ご意見やご質問があればいただきたいと思います。

委員

たくさんあるのですが、まず、アンケート調査の前提となる資料1に関する質問ですが、冒頭の社会的な問題 SWOT分析の内容は、今の世の中をどのように捉えているか、特に機会と教育といった、子どもたちを取り巻く現状をどのように捉えているか、という内容だと思います。脅威の中で、今の子どもたちの現状をどのように捉えているかの中で、決定的に足りないと思うのが

日本の若者の自己肯定感の低さがあると思います。新聞等のメディアで長年言われていて、OECD諸国の中でも相当低いという現状があるということ、また、それと関連して生きづらさを感じている子どもの数を捉えることも大事だと思います。非常に痛ましいことではありますが、自殺の件数やいじめの件数、引きこもっている若者の数、不登校の人数、虐待の件数等々を把握する必要があります。いままでも、様々な対策が講じられており、それを、どのように、どれだけ実施したかという実績を把握することも大事なのですが、対策を講じても、結果的に件数が減っていないのであれば、その対策自体の効果が、残念ながらなかったということになるわけですね。なので、後半の方でもこの話はしたいと思いますが、このようなことをきちんと把握した上で、何が課題で、どのような事業を実施するのかということが大事だと思います。以上が1つ目で、自己肯定感の低さについて、入れて欲しいというお願いになります。

会長

それについて、事務局はいかがでしょうか。

事務局

そういう背景があるということで、調査票を作成する資料として、少し整理したいと思います。

会長

他の方は、どう思われますか。ご意見はありますか。

委員

若者の自己肯定感が低いということはよく言われていますし、そのことに関しては、私も賛成です。ただ、自己肯定感についてアンケートを採れば、高い数値は出ないだろうと思います。

委員

自己肯定感の低さを調査するアンケート項目を入れるということではなく、現状として、既に、そのようなアンケートを取っていて、その結果、自己肯定感が低いという回答が得られている、色々なところでそういう統計データが出ているし、新聞等でも報道されている、そういう現状を、現状認識の部分に入れて欲しいということです。

委員

自己肯定感の低さに対して制度やシステムで、何か直接的な効果が得られるような対策を講じることは、難しいのではないかと思います。その対策をすること自体、難しいのではないのでしょうか。例えば、対策として地域の中で声を掛け合いましょうとか、子どもたちの意見を認め合いましょうとか、そういう話になるわけですが、ここで言っているのはその前段の、地域の人同士の繋がりが希薄だから、そもそもそこに行きつかないというような、もっと手前の話をしているのだと思います。

委託事業者

調査票としては、就学前児童についての説明をさせていただいたのですが、すべて4種類の調査票に関係する形で関連計画、地域分析等の資料を作っておりますので、今のご意見につきましては、現状認識として取り入れたいと思っております。さらに、今回のアンケート調査を行って、現状と課題は今年度末から来年度初旬くらいまでに、もう少しブラッシュアップさせていかなければならないと思っております。あくまでも今は、アンケートを取る前の段階での現状認識として整理しておりますので、今のご意見につきましては、今後の会議の中で、ご意見をいただきながら、つめていきたいと思っております。

本日の会議では、できるだけ調査項目についてご意見をいただきたいと思っております。

会長

時間もスケジュールも余裕がありませんので、そのように対応したいと思います。よろしいですか。

委員

はい。前向きに検討していただきたいと思っております。

会長

他の方、就学前児童の調査票について、何かご意見はございますか。

委員

このアンケートが自分に実際に送られてきたと想定してみると、回答するのは大変だと感じます。レイアウトもこれを読むということも。例えば、文章をもう少し簡単な表現にすることはできないでしょうか。例えば、「就労」という言葉を「働く」という言葉に置き換えるとか。文章を読むにあたり、文章のボリュームも多く、堅い表現の言葉があると、途中で読むのを辞めてしまいがちだと思います。

それから、4ページの間22、核心ですと説明があった部分で、いくつかパターンが示されていますが、よく読み込まないとその違いがよく分からないと思います。同じ前提条件のものは、「フルタイムとは、～のようなことをいう。」とか、言葉の定義づけを外書きするとか、そのような工夫をした方がよいと思いました。

それから、「子育ての相談ができる場所がありますか。」という項目があったと思います。そこに、NPOが児童館と一緒にくくりで書かれていましたが、行政の窓口と民間のNPO等の団体については、分けて統計を取った方が、施策に影響力があるのではないかと思います。例えば、アンケート結果により、民間の団体の相談件数が多いようであれば、市が民間の団体を支援するような施策を検討するとか、そのようなことができるような分類の仕方ができればいいと思います。以上です。

会長

その点につきまして、いかがでしょうか。

委託事業者

項目の文章の表現について、項目の選択肢を明確に分かりやすくするために文字数を減らすなど、ご意見があるかと思えます。冒頭に説明するべきでしたが、今回の調査を実施するにあたり、今後、国から手引きが提示される予定です。前回の5年前のアンケート実施の時には、アンケート項目とその回答の集計方法について国から手引きの提示がございました。多くの自治体では、国から提示があった項目については、基本的にその項目をそのまま採用しております。都道府県によっても指導の仕方が違いますが、項目の表現を変えることによって得られる回答結果が変わる可能性もございますので、基本的には項目と回答方法は、そのまま使うよう指導が入ったこともございます。今回のアンケート調査の国の手引きは、7月末に示される予定でしたが、まだ今現在、提示がございません。今後、提示される手引きによっては、修正できる部分とできない部分がありますので、申し訳ございませんが、ご了承いただきたいと思います。

委員

変えづらい事情は分かりましたが、そもそも、回答してくれなかったら結果に繋がらないので、妥協点を見つけていただきたいと思います。

委員

素朴な疑問なのですが、国の調査と言う話が先ほどから出ておりますが、今回の調査は国の調査を合わせて実施するという理解でよろしいですか。もし、そうであれば、今回の調査結果は国にも提出するということになりますか。また、「国の調査でもあります。」といった文章が入っていないのは、敢えて意図的に入れていないのですか。

事務局

国から、ニーズ量を把握するために、こういう項目を設けなさいという指示書が提示されます。それに基づいて項目を作成するため、変更できない場合と、削除してもよい場合があります。このアンケート結果は、市の子ども・子育て支援計画を策定するために使用するものなので、国の調査として行うものではありません。国がアンケートを実施するというよりは、国が設定した項目と市独自の項目で日野市がアンケートを実施するということでございます。

会長

アンケートの主体は日野市になるということによろしいですか。

事務局

はい。説明の中で、「国の調査」と表現したので、「国が実施する調査」と伝わってしまったと思いますが、「国が実施する調査」ではなく、「国の考え方に基づいて、日野市が行う調査」ということでございます。

委員

日野市が主体となって実施するのであれば、項目の表現に、もっと市のオリジナリティーを出してもいいと思います。

会長

変えられるところは変える、という対応をしてもらいたいということですね。

委員

はい。ただでさえ、ボリュームが多いので、できるだけ回答しやすく工夫することが必要だと思います。

会長

他にご意見はございますか。

委員

調査票の前の説明、資料1の中で、遊びや体験活動が減っているということが課題としてあげられていたと思いますが、就学前児童の調査項目には、子どもたちの遊び場についての項目がないのはどうしてなのでしょう。私どもが運営しているプレイパークは、子育て中の保護者からの「子どもがのびのびと遊べる場がなくて困っている。」というご意見を踏まえてできたものです。全国的にもこのような状況があると思います。就学前の子どもたちが、実際にどのような場所で遊んでいるか、どのような場所で遊びたいかを調査項目に入れる必要があると思います。小学生の調査票には、遊びや遊び場に関する項目がありましたが、就学前児童についても必要だと思います。

また、項目や回答の選択肢及び事業一覧の中に、プレイパークが入っていないです。今までもそうだったのですが、日野市の一事業として位置づけていただいていると思うので、遊び場の一つとして、項目や回答の選択肢、事業一覧に入れていただきたいと思います。具体的に追加して欲しい箇所については、別途お伝えしようと思います。

事務局

まず、遊び場に関する項目の件ですが、お話の趣旨はよく分かりますので、全体のボリューム等を含めて検討したいと思います。

次に、プレイパークの件ですが、事業一覧はもともと15ページ以降の項目のために、作成しました。15ページ以降の項目にプレイパークについては入っていないので、プレイパークについては項目及び事業一覧の中に入れてたいと思います。もし、これについてご意見があればお願いします。

会長

他にも自分たちの活動について入れてほしい等、ご意見があればお願いします。

委員

まず、遊びに関する項目は入れた方がいいと思います。これは人から聞いた話なので、確かなソースがあるわけではありませんが、子どもの権利条約の中で子どもの余暇の部分に関する規定があったと思いますが、日本は勧告を受けており、日本は余暇の部分のアプローチが弱いと言われていると聞いたことがあります。日野市は、子育てに力を入れた町だと思うので、先駆的に取

り組んでいるという姿勢をアピールした方がいいと思います。

また、日野市はきれいな丘陵公園や川、用水路があり、恵まれた環境があるのに、そこで遊んでいる子どもをあまり見かけないので、この機会を利用して、そういう場所で遊んでもらうよう誘導するのもいいのではないのでしょうか。もともとある資源が活用されないのはもったいないと思います。

委員

川とか公園を、回答の選択肢の一つとして設けるのはいいことだと思います。

委員

それで、遊び場として認知されることもあると思います。

委員

私が住んでいるマンションには、広い中庭等があり、住んでいる子どもたちが遊ぶ場所になっているのですが、子どもの友達などつてをつたって、色々なところから子どもたちが遊びに来ます。マンション内ではセキュリティー対策がしっかりしていて、環境が整っているので、「そのマンション内なら遊んできていいよ」という保護者の方もいるようです。その一方で、子どもが蹴ったボールが人に当たってしまったり、遊ぶ中で物を壊してしまったりすることなどをよく思っていない方もいらっしゃいます。公共施設だけでなく、私有の居住区についても、子どもが遊びやすい場所や環境づくりをサポートするような支援を行政側から受けられればよいなど、個人的に思っています。

委員

日野市に引っ越してきて、子育てをする中で、公園の遊具が少ないと感じました。周囲の保護者も同意見だったので、市の公園整備を管轄する部署に要望を伝えたところ、市内の公園の遊具で故障している部分の修理等、年間計画を立てている分の対応で予算的に厳しく、新しい遊具を設置する余裕がないということでした。放課後に、「ひのっち」くらいしか子どもが遊べる場所がない状況で、子どもたちをどこで遊ばせようかと悩んでいる状況です。そのような状況を考えると、私もみなさんと同じで、子どもたちがどこで遊び、どのような場所で遊びたいか等の遊び場に関する項目は必要だと思います。

それから、子ども関係の施設に行くときも、前に住んでいた所との差を感じます。スタッフの数や玩具の数も少ないと思います。以前住んでいた所では、貸し出しの玩具が充実していたり、市が企画して、子どもたちと一緒にお祭りを作りあげる機会があったり、公民館の中に子どもたちがバンド演奏できるようなスタジオがあったり、子どもたちが生き生きと過ごせる居場所があったと思います。私が現在住んでいるところの近くには、このような場所がなく、雨の日もどこに行こうかと悩みます。以前住んでいたところでは、近くに遊べる場所が点々とあり、気軽に行けたのですが、今は、そのような場所がないと感じます。駐車場も少なく、そこまで足がのびなかったりするので、家の中にこもりがちになっています。子どもの居場所づくりに積極的に予算を回して対策を取る等していただかないと、何も変わらないので、アンケートの項目に遊び場について入れて、市民の方々の意見を聞いていただきたいと思います。

会長

ありがとうございます。他に何かご意見ありますか。

副委員長

SWOT分析自体が初めてなのですが、仮説検証型の手法を取り入れて調査票を作成されていると思います。資料1の最後のページにある6つの課題の仮説の④に「対人交流や遊びや体験活動が乏しい子どもが多くなっている」とあると思います。この課題の仮説を検証するためには、遊びに関する項目は必要だと考えます。仮説検証型という手法をとっているので、実際どのような場所で遊んでいるのか、遊びたいのかについて聞いて実態を把握しないと、検証できないと思うので、遊びに関する項目は必要だと思いました。

それから、同じ資料の中の⑤の仮説で、「子どもが人権をめぐるトラブルに巻き込まれている。」という仮説に対する項目は、どの項目ですか。

会長

この点について、どうでしょうか。

委員

委託業者のご担当の方が回答を準備している間に、別の話しをさせていただきます。問番号が分からないのですが、アンケートの中に、「子どもをどのようなときに叱りますか。」というような項目があったと思いますが、その項目が、国の量の見込みに該当しないということで、削除されていたかと思います。

副会長

その項目は、アンケートの問3だと思います。

委員

問3ですね。全部が全部、人権に関することではないかもしれませんが、虐待や子どもの人権について引き出すのに、問3は有効だと思っています。報道などの切り貼りですが、親はしつけどもっていて、虐待だとは思っていなかったが、結果的に虐待として逮捕されてしまう等の事件があるかと思っています。その一番のきっかけとなっているものは、何かに怒ろうとか、何かに叱ろうとか、そういうマインドがどこかにあつたりすることだと思います。そのようなことは、直接、何かの量には関係ないかもしれませんが、子どもの人権に関する仮説を立証するためには、問3という項目は、あってもよいのではないかと思います。

その一方で、先ほど、アンケートのボリュームが多いので減らした方がいいと話をした手前、申し訳ないのですが。

副委員長

「ご家庭で」というと、親と子の関係でしか見ていないと思いますので、もう少し、日野市の中で子どもの人権をどう捉えるかということを知る項目があつたらいいなと思います。親子関係で、怒るとか怒らないとかいうのは、よく言われていることですが、例えば「保育園で」叱ると

か「学校で」叱るとか、そういう叱るという場面でも色々あると思うので、もう少し広い範囲で、自分の子どもに対してだけではなく、私たちが、日野市でどのように子どもの人権を守っていくのかという視点での項目があったらいいのではないかなと思いました。

委託事業者

今の既存の項目でいいますと、後程説明する資料になりますが、子育て関連事業者の調査票の4ページ目に、児童虐待に関して問3「現在、児童虐待が大きな問題となっています。虐待の原因はなんだと思いますか。」という項目があり、それが関連すると思います。

ここで、一度、SWOT分析の資料1に話を戻させていただきます。資料1の最終ページに「⑤子どもが人権に関するトラブルに巻き込まれている。」という記載がございますが、この仮説から来る部分は、資料の左下の方に⑤と附番された記載があると思います。「学校に行くのが嫌になることがありますか。」また、「その理由はなんですか。」等、これらの項目が、小学生調査票の最終ページに新規で追加した項目になります。「学校に行くのが嫌になることがありますか。」という項目で「ある」と回答した方に、その下の項目でその理由を聞く項目になっています。理由として「いじめられている」という選択肢があり、それを、子どもの人権の仮説に対応するものとして、現時点では準備しておりましたが、範疇が少し狭いと思いますので、今のご意見を踏まえまして、もう少しこの部分については検討したいと思います。

副委員長

もう少し幅広く子どもの人権に関することを入れていただけたらと思います。

委託事業者

はい、検討させていただきます。

会長

大分ご意見をいただいたと思います。ありがとうございます。時間の配分もございますので、次の小学生のご説明をお願いします。

委託事業者

資料2の小学生調査票をご覧ください。作成方法は就学前児童と同様です。就学前児童と同様、項目を削除して、ボリュームを調整しております。その中でも、新規で追加した項目もございます。

就学前児童の項目と比べて、小学生の調査票の中で特に確認したいことは2点ございます。

1点目は、学童クラブに関することと、2点目は、子ども本人に対する項目を創設したことです。具体的な項目については、小学生調査票をご覧ください。11ページの間36から、放課後の過ごし方として、放課後はどこで過ごしていますかという項目が設定されています。

間36は小学校低学年を、間37では小学校高学年を対象とした項目となっております。更に、間38は、土日はどこで過ごしているのか、土日に学童クラブの利用希望はあるのかを確認する項目で、間39は長期の休暇の過ごし方、長期休暇中に学童クラブの利用希望はあるのか、間40は、放課後子ども教室「ひのっち」の利用希望についての項目となっております。ここが、就学前児童

にはない項目で、小学生調査票のメインの部分になります。

最終ページをご覧ください。放課後・休日の過ごし方を、小学生ご本人に回答していただく項目を準備させていただきました。放課後、休日はどこで誰と過ごしていますか、また、どこで誰と過ごしたいですかという内容になっております。先ほどいただいたご意見からしましても、どこで過ごさせたいのかという部分をもう少し幅広く、選択肢を準備しようと思います。それから、既存の施設の中でどのような内容を求めるのかということも、就学前児童と同様、事務局と確認しながら再度検討しようと思います。

会長

ありがとうございました。小学生の調査票についてのご説明をいただきましたが、これに対して、委員の皆様からご意見を伺いたいと思います。

委員

子ども本人に聞くアンケートを作ってください、ありがとうございます。私自身、これが必要だと思い、事前に事務局に意見を出させていただいたのですが、意見を採用していただき、嬉しく思います。子ども本人が回答するアンケートに、「学校に行くのが嫌になることがありますか。」という項目があるので、できれば加えていただきたいのが、「困っていることや悩み事を相談できる人はいますか。」とか、「困っていることはどういうことですか。」というような項目です。それが、先ほど副委員長がおっしゃっていた人権に関わる対策等を考える上で、非常に大事なことだと思えます。困っていることや悩み事を聞いてくれる人は、親や学校の先生、学童や児童館の人や友達など色々考えられうる選択肢があると思いますし、どんなことに悩んでいるのかを広く調査するというのも大事なことだと思っています。

小学生ですので、回答形式を、自由記述式にするのか、悩んでいることが、勉強のこと、学校のこと、進路のこと、友達のこと、親のこと、兄弟姉妹のこと、などの選択肢を設けるのか、そのあたりについて皆様からご意見を伺いたいと思います。

今の話は小学生で、中学生は入らないのですが、私は、この委員会とは別に、日野市の男女平等課が推進している検討委員会にも参加させていただいているのですが、そちらも、同じタイミングでアンケートを実施しようとしています。数年前のアンケートですと、男女平等という観点の下では、働いている父母の格差を是正するというようなテーマがずっと続いていたのですが、ここ数年でそれが変わってきて、LGBTや性の悩みが低年齢化しているとか、そういうことに対して、次のアンケートで対応しないといけないのではないかという議論がされています。ただし、男女平等課の委員会では、子どもや青年に対するアンケートの実績がないので、今回、同じタイミングでアンケートを実施するので、うまく連携できれば、予算が少ない中で、子どもや青年の悩みを浮き彫りにして、他の計画と対策をシェアできたりするとよいのではないかと思います。男女平等の委員会には、専門の先生もいらっしゃるのです、うまくコラボできると、より一層、今の子どもたちや青年の悩みの部分が浮き彫りにできるのかなと思います。長くなりましたが、以上です。

会長

今、話している前提が小学生ということもありますが、今のご意見について、どうでしょうか。

委託事業者

今回、小学生本人に回答していただくアンケートを提案させていただきました。この項目は非常に有効な項目だと思っています。子ども・子育て支援の計画ではございますが、子育て支援という視点だけでなく、子どもの育ちという視点からも、子どもの意見は有効であると思います。あとは、ボリューム的な問題があり、どのくらい項目を追加できるかということがございますので、ご意見をいただきながら、事務局と検討させていただきたいと思っています。

会長

はい。そうですね。小学生になると、自分の意見もしっかりと言えますので、就学前児童ですと、そういうわけにもいかないでしょうから、保護者に託していただくということになると思います。項目の追加については、限られた範囲の中で、工夫していただくということになると思います。他にご意見やご質問はございますか。

委員

この調査の対象は1年生～6年生全部ということになりますか。

委託事業者

はい。

委員

1年生から6年生を調査対象とすると、幅が広いので、まず1年生には、このアンケートそのものが、読めません。まず、この点については工夫していただきたいと思っています。

それから、単純なことですが、1つのアンケート項目の中で、誰と過ごしていますか、また誰と過ごしたいですかと、2つのことを聞いているのに、回答の囲みが1つになっています。中を見れば、最初の質問の回答の選択肢は左側で、2つ目の質問の回答は右側だと分かるのかもしれませんが、例えば、囲みの中に線を入れるとか、四角の枠を離すとか、何か視覚的に工夫した方が、子どもたちが分かりやすいと思います。

それから、アンケートの最後にある、「学校に行くのが嫌になることがありますか。」という項目について、昔と今では「嫌になる」原因の傾向が大分変わってきています。回答の1から10の選択肢が原因とされる「行きたくない」や「不登校」に対しては対策が練られるのですが、最近増えてきているのは、理由が見つからない、何となく行きたくないとか、そういったケースです。そういう子どもたちが、一体どの選択肢に○をつけるのだろうかと考えました。そういう子どもの数や、学校に行くのが嫌になる理由を知りたいということであれば、回答の選択肢として「なんとなく」を追加してもいいのかどうか、悩みながら見ていました。いずれにしても、小学生本人に聞いてもらえることは、ありがたいと思います。

それから、先ほどから話題になっている、遊び場に関する項目で、こういう遊び場を作りたいとか、子どもの生の声を知りたいです。それが、今後、市として何ができるのだろうかという話に繋がっていくと思います。

会長

ありがとうございました。お子様直接が回答するというのですが、低学年のお子様については、保護者の方のサポートも得て、回答してもらうことになると思います。

委託事業者

今のお話の中で、1点確認をさせていただきたい点がございます。実際、調査票を印刷する時に、保護者様から回答していただく調査票と、小学生ご本人様が回答していただく調査票と、分けるべきなのか、くっつけて印刷するべきなのか、その点については、まだ確定しておりませんので、この場で確認させていただければと思います。分けるのであれば、お子様に回答していただいた回答を、保護者様の回答と一緒に封筒に入れてもらい、返信していただくという方法もとれます。

ただ、十分気をつけなくてはならないのが、お子様の回答を保護者様が見ることになりますので、お子様が回答しづらい項目を入れると、回答を回収できない可能性もございます。その点について視野に入れて、検討していただきたいと思います。

会長

このことについて、何かご意見はございますか。

委員

たしか貧困に関するアンケートを実施した時に、その点について配慮されたアンケートだったということを、実際にアンケートに回答した中学生の保護者の方から聞きました。親子両方が答えるアンケートでは、子ども本人だけでアンケートを書いて、親が見ることなく、子ども向けの回答用紙は別の封筒で提出するようになっていたと聞きました。

委員

私も、そのような配慮はとても大事だと思います。

会長

アンケートの内容によっては、配慮が必要だと思います。

副会長

他の方も、よろしいですか。

会長

はい。他の方どうぞ。

委員

3点ほどあります。就学前児童とも関係することなのですが、先ほど、性教育の話が出ていたと思います。子どもに対して学校で性教育をするというよりも、性教育は家庭でできることだと思っていて、むしろ、幼稚園児からやった方がいいと思っています。私は、個別にそういう制度

の勉強をしているのですが、日々の生活の中で、家庭でできる性教育があると思います。学校で習うことだけでなく、もっと日々の生活の中で、家庭でできることがあると思います。私はたまたま、勉強して知っていただけなのですが、そういうことを、ご存じない保護者の方が結構いらっしゃると思います。就学前児童のアンケートの中でそういう点について、保護者の意識として聞いてみるのはよいのではないかと思います。新しい流れになると思うのですが、性教育は大事なことだと思うので。子どもがスマホでそういう情報も見られる状況で、それを阻止するのは今の時代では、難しいと思います。予め家庭でそういうことを話題にする機会があれば、そういう情報が来た時に子どもたちの意識も違うと思います。保護者の意識が子どもたちに影響すると思うので、保護者側がどう考えているかという事にアプローチしていくことは大事だと思います。

委員

今のご意見は、保護者側の悩みを聞くときに、性教育についての項目も入れた方がよいということですか。

委員

はい、そうです。おそらく、保護者の中でも、そういうことは、学校が教えてくれる以外、どうしたらよいのか分からない人もいるのではないかと思います。

委員

アンケートの間2に、そのようなことを入れるのはどうでしょう。

委員

そうですね。それで現状把握ができれば、施策に反映できると思います。

会長

間2に少し加えるというご意見ですね。

委員

はい。それから、あともう2点ほどあります。子育てしていて悩むのは、子どもが自分の思い通りにならない、これに尽きると思います。例えば、離乳食を作ったのに食べてくれないとか、寝かしつけたのに寝てくれない、そういうことなんです。特に幼稚園、小学校に上がる前の子どもたちについては、母親との精神的な結びつきが特に大きくて、母親のマインドが子どもに投影されていると思います。それが、自分でもよく分かります。例えば、母親が我慢していると、子どもがそれを知らせるために、騒ぐのです。母親が、我慢していることや、悩みがなく、精神的に余裕が持てると、子どもたちも落ち着いていられるんです。そうすると、子育ての悩みも大分消えてくると思います。調査票にも少し入っていたと思いますが、母親がやりたいことができているかどうか大事な視点だと思います。就学前児童の調査票の間2の選択肢8で、「仕事や自分のやりたいことが十分にできない。」とあるように、子育てしながら自分が息抜きしたくても、預け先が無くて出かけることができなくて、イライラが溜まるとか、悩みの原因は、色々あると思います。母親のマインドが、子どもにストレートに影響していると思うので、子育ての相談窓

口がある云々ではなく、母親が輝いているかどうかなんです。そういう視点の項目が入ってればいいなと思ったのですが、入っているのでしょうか。

子育ての相談窓口があれば、それでいいという問題ではないんです。そこに行くかということ、違うのです。何かを本当に話したいとかそういうことではないんです。イライラした原因を掘り下げていくと、自分が色々我慢していることが原因だったりすると思います。子どもは、それに気づかせるために、グズったりするんです。母親がそういうところから自由になると、子どもも変わったりするので、うまく言えないのですが、その辺のアプローチを行政として、何かできることがあるのかなと思います。

委員

例えばですが、資料1の2枚目の「原因抽出のための整理表」にある課題の仮説の②で、「子ども・子育てのことで気軽に相談できる環境にない。」というものに紐づけて、子育て中にストレスがあるという前提で「ストレスを発散できる場所ありますか。」というような項目を加えるのはどうでしょうか。間接的に、今のご意見と似たようなことを聞いている思うのですが。もちろん、ストレスは無いという選択肢も入れた上で。

委員

子育てすることが楽しくて、子どもと遊ぶのが楽しくて、料理するのが楽しい、という人はいと思うのですが、家事も料理も苦手、でもやらなきゃいけないという中で板挟みになって、辛いという人もいます。そして、その板挟みの状態から、イライラが募り、その矛先が子どもに向かってしまったり。家事代行サービスとか、個人的に気になるテーマですが。ファミリーサポートとかになるのでしょうか。だから、どうしたらいいという意見があるわけではないのですが。

会長

項目としては、最初の間1か間2あたりに関連させることになるのでしょうか。いかがでしょうか。

委託事業者

はい。会長がおっしゃられるように、間1、間2あたりではないかと思います。ただ、間1だけで、子育てが楽しいという方の数や辛いと感じる方の数を単純集計しただけでは、詳しい現状を導き出すことができないと思います。やはり、辛いと感じている方が、どのようなことで辛いと感じているのかという部分が必要になってくると思います。間1と間2をクロスさせて集計することによって、その部分が導き出せると思います。間1で辛いと感じている方が、間2でどのようなことで悩んでいるのかを集計すれば、把握できると考えています。間2の選択肢の中で、保護者の方が辛いと感じている選択肢が十分揃っているかというところを、皆様にご確認いただきたいと思います。

会長

今、確認していただきますか。

委託事業者

先ほどの、性教育のことなどが入ってくるのだと思います。今この場でなくても、別途、ご意見をいただいてもよろしいかと思ひます。

委員

問2などで、辛いと感じていることや悩んでいることについて聞きだして、今後の施策に生かしていくという事でしょうか。多い項目について重点的にやりましょうということですか。

事務局

まず、今皆様にさせていただくこととしては、問2のつらいという内容について、確認をしていくということです。また、課題をどうしていくのかという事については、その次の段階の話になると思ひます。課題の中でも優先順位の問題等も出てくると思ひますし、どういう施策ができるかについての議論は、別の、次の段階の話になります。

会長

課題をどうするのかというのは、次の段階の話になるということで、問2の悩みについて吟味するという事かどうか。

委員

はい。つらいと感じている内容をきちんと吟味して、聞き出すことは大事だと思ひます。

次に3点目の話をしてもよろしいですか。先ほど、小学生の調査票で、学校に行きたくないという話が出たと思ひます。登校拒否や学校に行きたくない子どもが、年々増えてきていると思ひます。学校も、幼稚園に通わせるのもそうですが、集団行動させて、先生が1人で数十人を見るという状況は、そもそも無理があるのではないかと思ひます。その子が選んでいるのであれば、学校に行きたくないなら、行かなくていいと思ひます。なんとかして、学校に行かせようという方向で政策を作ってしまうと、子どもが学校に行く以外の選択肢がなくなってしまうと思ひます。学校に行きたくないと選択した子は、自分の好きなことをしたり、得意科目の分野を自分で勉強するとか、伸ばせる分野があると思ひるので、学校に行く以外の選択肢を、ぜひ作って欲しいと思ひています。登校拒否を問題と見るかどうか。そもそも、登校拒否って問題なのも子どもが、学校に行きたくない、辛いと言うんだったら、授業の時間は50分と決まっているので、家で勉強すればいいと思ひます。自分が学校教育で育ったことで、大人になって、自由なことをして生活している人のことが羨ましくなったり、自分はルールに乗ってきってしまったと感じることもあったので、これからは時代も変わっていくと思ひるので、学校以外の選択肢を子どもに用意してあげて、その上で、自分で選んで学校に行けばいいと思ひます。

委員

不登校の数は、昔に比べてかなり多いです。どこの学校にもいて当たり前というくらいです。先ほどもお話ししましたが、不登校そのものは一つの現象なんです。もともと、何か課題があるのです。だから、その不登校だけを直しても、どうしようもないんです。私個人は、そう思っています。学校に行かせること自体が目的じゃないんです。その子をどう育てていくかが大切なん

です。それを、学校も家庭も共有できればいいと思います。

そして、学校に代わるものがあるかと言えば、少ないです。まるっきりないということではありません。プレスクール等がありますが、かなり遠くて通えなかったり、気軽に利用できるような状況ではないと思います。市内にも、そのような教室、わかば教室があるのですが、遠くて通えないという問題があります。

委員

子どもたちが、「僕は、学校行かないと周りの友達において行かれる。」、「自分の近所の友達はみんな学校に行ってるのに、僕だけ行ってない。だから多少のことは我慢して学校に行くんだ。」となってしまうと、それで幸せなのかなと思います。「小学校に行かないなら、僕はこっちに行くよ。」というように、自分で道が選べると、大分違うと思います。自分で選択して、周りから行きなさいと言われて行くのではなく。まず、アンケートの中に、不登校の項目があるのであれば、その項目のあと、学校以外の選択肢が欲しいと思っているかどうかを聞いたらどうでしょうか。周りから、「自分の学区の小学校以外に、子どもの行く道はないですね。」とか、「小学校にうまく適応できなかつたら、うちの子どもはどうなってしまうのでしょうか。」とか、そういう話をよく聞きます。

委員

今は、学校選択制度もあります。

委員

はい。でも、学校選択制度で選択できるのは、全部学校なんですよ。

委員

そうです。

委員

子どもは学校に行くしかないのでしょうか。

委員

専門家ではないので、分からないのですが、これは、学校教育法で定められている義務教育の垣根を超えて、市のレベルでどうにかできる問題なのですか。

委員

何か、先駆的な事業をしているところはないのでしょうか。日野市が、先陣を切って、よい事例になるのはどうでしょう。

委員

私がこの間、子どもの権利の中で話した、川崎市がまさにそうで、川崎市は子どもの権利を守るために具体的にやっているのが、自由に遊べるプレイパークと、もう一つがフリースペースで、

学校以外の子どもたちの居場所を保証しています。確か、八王子市の高尾学園も、学校に戻ることとを目的としないで、そういう子どもたちの通う場になっていると思います。なので、施策として実施している自治体はあります。

委員

そういうところが日野市に増えるといいと思います。親のスタンスが、全然違うんです。「学校に行きなさい」と言うことになるのは親だと思います。「勉強ついていけなくなるから、学校に行かないといけないんだよ。」とか、そのようなことを親から言われることで、「学校に行っていない僕はダメなんだ」と子どもが思ってしまうのです。

会長

そういう議論も大事ですが、一方で、子どもたちが行きたくなる居場所づくりと同じで、子どもたちが行きたくなるような学校づくりをすることも大切でしょう。

委員

そうですね。

会長

やりたくないからやらない、自分のやりたいことだけをする、それですべてが通れば、こんな楽なことはない、子どもや青年期にそれで通せたとしても、成長して大人になったときに、「人の物が欲しいから取ったんだ」というようになってしまったら。こういうことに対応するための教育も絶対に必要なのです。それを、親が全部教えられるかという、限界がある。やはり、集団の中で、社会的な環境の下で、学校で、「こういうことはしてはいけない」と学んで身に付けていくことだと思います。

委員

学校をより良い場所にするという事と、学校に適応できなかった場合の学校以外の環境づくりの両方できるようなことを、今後、5年間で施策として盛り込めるようにするために、アンケートの中にそのあたりのことを聞ける項目があればよいと思います。

副会長

他にご意見はございますか。

委員

最後の項目に関することですが、「学校に行くのが嫌なことがありますか。」と子どもに聞くと、十中八九、「はい」に○をしてしまうと思います。理由の選択肢に「勉強したくない」とあると、子どもの感覚だと、大体そこに○をしてしまうのかなと。

委員

そうなりますね。

委員

とすると、本当に聞きたい答えが返ってこないと思います。子どもたちからニーズを掘り出すためには、「学校に対して、もっとして欲しいことはありますか。」というような項目を作るといいと思います。「エアコンが欲しい。」とか「給食を1品増やして欲しい。」とか、子どもが、前向きに回答しやすいと思います。そういうポジティブな聞き方をした方がよいのではないかと思います。

委員

学校のマイナス面ばかり取り上げるつもりはないのですが、「こうなって欲しい」とか「ここが嫌だ」というような聞き方でないと、確かに、難しくなると思いますので、聞き方に工夫が必要だと思います。

全て事務局にお任せするのではなく、この場でなくてもいいので、何か案をこちらから提案した方がいいと思います。

会長

そうですね。では、案を別途、事務局にお伝えいただくということで、よろしく申し上げます。他にご意見がなければ、次のテーマに移ってもよろしいでしょうか。

副会長

次のテーマに移る前に、2点ほどお話ししたいのですが、子ども自身が回答するアンケートができたのは、私も嬉しく、ありがたいと思っています。

まず、親と子にそれぞれアンケートを実施するので、「このアンケートに回答してよかったな。」と思っただけのような項目を入れた方がよいのではないのでしょうか。

あともう一つは、先ほど、ポジティブなアンケート項目というお話がでしたが、全体的に、少し気分的に暗くなるような項目が多いと思うので、ページが増えてしまうかもしれませんが、もっと気持ちがポジティブになるような項目を入れていただけるといいと思います。

委員

今の副会長のご意見に加えて、できれば、子ども用のアンケートに、遊び場のこと、例えば、どんな遊具で遊びたいかとか、子どもが求める遊具等の項目を設けて欲しいと思います。そして、その結果、どれか一つでいいので、子どもたちの希望を実現させて欲しいと思います。自分が回答したことが叶えば、アンケートに回答した意義を子どもも肌で感じてくれると思います。子どもの意見をヒアリングして、大人が予算を設けて実現しました、というストーリーがあってもいいと思います。

会長

ありがとうございます。これについていかがですか。

事務局

たくさんのご意見、ありがとうございます。どこまで、実現できるかということもそうですが、検討させていただきたいと思います。

会長

時間に限りがありますので、次に、子育て関連事業者・団体調査について、説明をお願いします。

委託事業者

それでは、子育て関連事業者・団体の調査票について、ご説明いたします。項目が少ないので、一覧表で説明をさせていただきます。資料2の子育て関連事業者・団体一覧表をご覧ください。基本的には、国の調査に基づく調査ではございません。市独自の項目で、ほぼ概ね、5年前の調査項目に準じて作成しておりますが、変更点が1点ございます。アンケート項目の間12「一般的に、日本では家庭における養育力が低下していると思いますか」と養育力の低下というところで、現状を聞く項目を削除し、今回、新規で、子どもの育ちにとって大切なことや、子どものあるべき姿についてどう考えますか、といった項目を追加しております。

会長

ありがとうございます。調査票の子育て関連事業者・団体の説明がありました。何か、ご意見やご質問はありますか。

委員

新規で追加されている子どもの育ちに関する項目の聞き方はいいと思いますが、回答については、選択式ではない方がいいと思います。ここに列挙されている選択肢以外の回答も、色々出てくると思います。事業者の考えを拾い上げることは、大事だと思います。事業者が、このような質問をされれば、様々な意見を書くのではないかと思います。ここに挙げられている選択肢を、もう少し考えた方がよいというか、少し偏っているように感じられます。恣意的にならないようにするのは非常に難しいと思うので、選択式が果たしてよいのだろうか、と思います。

それから、「子どものあるべき姿についてどう考えますか。」という項目ですが、「あるべき姿」という表現が、非常にひっかかります。「子どもにどう育て欲しいか」という意図なのでしょう。そういう意図であれば、「あるべき姿」という表現だと、「子どもがこうあるべき」というような「正しい子ども像」があるかのような印象を受けるので、「あるべき姿」とするのはではなく、「子どもにどう育て欲しいか」と聞いた方がいいと思います。

委員

その表現の方がいいですね。

委員

この項目の回答を、選択式にするのがよいのか分かりませんが、選択式にするならば、選択肢をかなり吟味する必要があると思います。

会長

皆様、これについてご意見・ご質問はございますか。

委員

このアンケートを、関連事業者の施策に取り入れていくということですか。

委員

先ほどの、項目の回答方法、選択式と自由記述の件ですが、NPO法人等の事業者も団体としての意思があり、子どもたちとどう付き合うか等の理念がそれぞれあると思います。事業者個々の考えや理念等について、アンケートの中で回答してもらい、それぞれの考えや理念を把握できれば、こういう場合には、この事業者につなげる等、コンシェルジュ的な機能ができたらいいと思っています。民間の団体でも相談等のミスマッチはあるので。

委員

選択式でなくて、自由記述の方がいいという事ですよ。

委員

はい。場合によっては、回答の量が多くて収集が難しくなると思いますが。

会長

はい、今のご意見について、どうでしょうか。

委託事業者

まず、回答についてのご意見について、自由記述式にした方がよいのか、選択式にした方がよいのかについては、事務局と再度、検討させていただきたいと思います。

次に、この項目につきましては、事業者として、多くの子どもたちを見ている中で、日野市の子どもたちとして、どう育て欲しいのか、という基本理念を把握するための項目と考えております。子ども・子育て支援計画では大きな目標として基本理念を掲げることになります。この基本理念について考えていただく上で、有効な項目だと考えております。

また、どう育てほしいのかという項目については、就学前児童の保護者の方々や、小学生の保護者の方々にも聞きたい内容かと思っております。保護者の方々事業者・団体の両方にこの項目を入れ、事業者側と保護者側で違いがあるか等を分析することになれば、回答は選択式の方がよいと思いますので、その点については、事務局と再度検討したいと考えております。

会長

ありがとうございました。事務局と再度検討をお願いします。次の説明をお願いいたします。

委託事業者

それでは、最後に企業向けのアンケート調査の説明をいたします。こちらにつきましても、基本的には、5年前と同様の項目になっております。市内の企業の基本特性、問4以降には、子育て

に関する実態として、ワークライフバランス、子育て支援として実施していること、今後の意向について確認する項目を設定しております。以上です。

会長

ありがとうございました。何かご意見ご質問はございますか。

委員

1つだけよろしいでしょうか。企業側に、何か地域の活動をサポートする意思があるかどうかを知りたいので、問8の②「今後取り組む可能性があると思われる内容」の回答の選択肢の中に、地域の活動のサポートという選択肢を入れて欲しいと思います。

会長

はい、事務局はその点について検討をお願いします。時間に限りもございますので、事務局から、調査票を決定するまでのスケジュール等の流れについて、説明していただきたいと思えます。

事務局

はい。調査票につきましては、本日のご意見を可能な限り反映し、修正案を今月末から9月初旬に、委員の方々にメール等でお送りいたします。また、それに対して、ご意見等ございましたら、こちらから提示する期日までに、事務局までお知らせください。

次回、9月末に実施される第3回の会議において調査票を最終確定し、アンケート調査をスタートさせたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

委員

メールが来るというのは、今回来た資料のように、膨大な量の資料がメールで届くということですか。そうだとすると要点が分かりづらいので、要点にマーカーをしていただけると、ありがたいと思います。

会長

話が、膨大な量に及びましたので、要点を分かりやすくする等の工夫は、できる限りしていただくという事で、事務局にお願いしたいと思います。時間に限りがありますので、次に進みたいと思います。

委託事業者

資料4の今後のスケジュールについてご説明させていただきます。当初の予定では、今回の会議で、調査票の確定をする予定でしたが、先ほども、お話しさせていただきましたが、まだ国の基準が示されていないということと、本日、ご意見をいただいた部分について、再度調整する必要もございますので、調査票については、今回確定することはできません。9月末の第3回の会議で確定する予定でございます。11月以降の会議には影響は出ないように予定を調整しました。再度、調査票の確定までのスケジュールの確認ですが、8月末の時点で今回の意見を踏まえて、調査票を修正させていただきます。次回の第3回の会議の前の段階で、その修正案に対するご意見

もいただき、再度調整させていただく予定です。全てのご意見を反映できない場合もあるかと思いますが、第3回の会議では、確定した調査票を皆様に提示したいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

会長

ご要望もたくさんあるかと思いますが、できること、できないことがあると思います。そういうことがあれば、第3回の会議の前に、直接電話等で事務局と話し合っていたいただきたいと思います。

(2. 審議事項 (2) 新！ひのっ子すくすくプラン (第5章163事業) の進捗状況について)

会長

それでは、次に審議事項(2)新！ひのっ子すくすくプラン(第5章163事業)平成29年度事業実績等一覧について事務局より説明をお願いします。

事務局

それでは、(2)新！ひのっ子すくすくプランの進捗状況について、ご説明いたします。資料5をご覧ください。資料5は、新！ひのっ子すくすくプランの第5章に記載している163事業につきまして、29年度実績と担当課による評価、また昨年の会議でのご意見を受け、評価結果にかかわらず、課題等を記載した形で、30年度の取り組み等を一覧にまとめたものになります。

本日は、時間が限られておりますので、子ども部所管の事業をピックアップして、いくつか説明させていただきます。

新！ひのっ子すくすくプランの基本目標 I 子育ての豊かさと楽しさの発見の方針 1 多様なニーズを受け止められる子育て支援の(1)多様な保育の場づくりから 学童クラブ・放課後児童健全育成事業の取り組みについてでございます。

2ページの2段目になります。学童クラブでは、29年度7月より、夏休み等に行っていなかった、17時45分から18時30分までの延長育成を、年間を通じ実施しております。また学校がお休みの日の育成の開始時間を8時30分から8時に早めるなど、取り組みを行っております。さらに、平成31年度より民間活力を導入し、育成時間の一層の拡大を進めてまいります。

次に6ページ上段、放課後子ども教室「ひのっち」についてです。平成19年6月にスタートした「ひのっち」は、平成29年度事業開始10周年を迎えました。平成29年度には夏休みに実施しているスーパーひのっち「なつひの」を前年度から2校拡大し8校で開催するなど、活動場所の確保など課題もありますが、着実に事業を拡充し、利用児童数も増加しています。

次に9ページ下段、利用者支援事業から、平成29年度の実績としましては、健康課が所管します母子保健型の事業となりますが、平成30年度に向け、保育コンシェルジュ配置の準備を進め、平成30年4月より、事業をスタートしています。

時間の関係で非常に手短な説明となりますが、私からの説明は以上とさせていただきます、委員の皆様からご意見等いただければと思います。

会長

ありがとうございます。ご意見・ご質問はございますか。

委員

16ページの虐待時の取り組みについて、相談件数の推移が掲載されていて、非常に分かりやすい資料だと思います。相談窓口に関する周知を図り、相談しやすい相談体制を整えたということで、虐待の相談件数が増えたと捉えることもできるので、相談件数が増えたことに対して、一概に悪いとは言えないと思いますが、虐待の相談件数は多いより少ない方がよいはずですし、相談件数が減った方がよいことだと思います。虐待に対する対策をしっかりと実施していて、それに対する評価もAということですが、相談件数が減らないという事は、そもそも、その対策に何か足りないというアラームを出さないといけないと思います。ここの項目が説明しやすかったのでこの項目を取り上げさせていただきました。

会長

ありがとうございました。時間がすでに2分ほど経過しておりますので、続いて次第の3 その他に移ります。事務局から説明をお願いします。

事務局

前回会議で、ご案内させていただきました「日野市子ども条例 10 周年記念事業」について、簡単にご報告させていただきます。

条例の日である7月1日に、日野市青少年育成会連合会と協働で、実践女子大学・香雪記念館をお借りして、条例の更なる周知を目的に記念事業を実施いたしました。当日は、小俣委員にも、記念対談でご登壇いただくなど、大変ご協力をいただきました。ありがとうございました。

また、250名ほどの方にご来場をいただき、日野市子ども条例の周知が図られたと考えております。引き続き、様々な機会を通じ、更なる周知を図っていききたいと思います。

お手元に、本日配布いたしました事業実施概要には、アンケートの集計結果や、白黒で見にくいと思いますが、当日の様子を撮影した写真等を掲載しておりますので、ご確認いただければと思います。記念事業実施にあたり、多くの委員の皆様にご支援いただきましたこと、この場をお借りして、御礼申し上げます。ありがとうございました。

次に、次回の日程ですが、9月27日（木）18時30分から、会場は505会議室、こちらになります。先ほども申し上げましたように、調査票につきまして、本日のご意見を可能なものは反映し、修正案を今月中にメール等で各委員にお送りいたします。さらに、ご意見等ございましたら、9月13日までに事務局あてお知らせください。

皆様から頂いたご意見は可能な限り反映させていただきたいと考えておりますが、本調査の目的やスケジュール等により難しい場合は、事務局で判断させていただきます。また、次回会議において調査票を確定し、アンケート調査をスタートさせたいと考えておりますので、何卒、ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。事務局からは以上です。

会長

ありがとうございました。記念事業のジェフ・バーグランド氏の講演は、非常に興味深かったです。時間が過ぎてしまいましたが、何かご意見やご質問はございますか。

委員

調査票に関するご意見はたくさん他の委員さんから出たと思います。私からは、このアンケートの回収率を上げるための方法について、提案をさせていただきたいと思います。せっかく、アンケートを実施するのであれば、回収率を上げたいと思うのですが、ただアンケートをするだけでは、なかなか回答率が上がるとは思えません。アンケートを実施するにあたり、謝礼金等の予算は用意されているのでしょうか。例えばですが、アンケートにご協力いただいた方に、市内のどこかのお店の割引券を配布するなど、何か謝礼見合いのものを用意するのはどうかと思いました。以上です。

会長

以上で、本日の議題は、すべて終了しました。お疲れ様でした。

次回日程

日時：平成30年9月27日(木) 午後6時30分～午後8時30分

場所：505会議室